

能薪一 天下

強い風、小望月も演出 石垣背景に幽玄の世界へ

延岡城址二の丸広場

第23回のべおか天下一新能(てんがいち・たきのう)が12日、延岡市の延岡城址(じ)二の丸広場で行われた。ライトアップされた幻想的な「千人殺しの石垣」を背景に、観世流能楽師ソチ方の片山九郎右衛門さんが熱演。県内外から訪れた約千人を幽玄の世界へと引き込んだ。主催は、NPO法人のべおか天下一市民交流機構(松下宏理事長)。

午後8時前には石垣の上からほほは満月の小望月(こもちつき)が姿を現し、演出に花を添えた台風19号の影響が心配されたが、予定通り実施。強い風にあおられるながらの熱

演に、観客からは大きな拍手が送られた。高鍋町から初めて訪れたという宮下晴彦さん(55)は、「めったにないコンディションの中、片山先生が竜のかぶり物を揺らしながら舞う姿はとても感動した。初めて見たが来年も絶対来ます」と興奮冷めやらぬ様子。鹿児島市から訪れた60代の夫婦は5回目の観覧。「とにかく風が強かったが、それが逆に景清の雰囲気が出ていて良かった。



能海士(あま)は、2010年(第14回)以来2回目の上演。後半では息子の藤原房前(ふさぎ)大臣役の子方(こかた)を同市の下沖美乃莉さん(西暦中1年)が務めた。初上演となった能景清(かげきよ)は現在の宮崎市を舞台とした物語。源平合戦に敗れて流されてきた平氏の武將・景清が一人娘と再会し、落ちぶれたわが身を恥じつつ、かつての武勇を語るさまを、片山さんが切なく勇ましく舞った。

大蔵流狂言師の茂山七五三(しむせん)さんと茂山逸平さん親子による狂言「魚説経(うおせつきょう)」は、魚の名前尽くしの言葉遊びをおもしろがる物語で会場の笑いを誘った。また、市内の小学4年生、高校3年生8人による仕舞と連吟も披露

能海士。竜女の姿となつて現れた片山九郎右衛門さん演じる母と、下沖美乃莉さん演じる息子(手前)